



あ

は

ら

祭



県の無形民俗文化財に登録されている宇出津の「あばれ祭」が7月5日、6日に開催されました。

初日は宇出津港いやさか広場前で、5本の大松明が激しく燃え盛り、約40基のキリコが舞い上がる火の粉にも動じることなく、勇壮に大松明の周りを乱舞しました。

翌日は酒垂神社と白山神社の2基の神輿が八坂神社を目指し、町内を暴れ回ります。激しく暴れるほどに喜ぶといわれる神のため、男たちは、海や川、そして炎の中に神輿を投げ込み、激しく暴れました。川の護岸では神輿を打ち付ける重く大きな音が響きます。松明に投げ入れられ火が移った神輿にも動じることなく、より猛々しく暴れた神輿は、6日未明に八坂神社に入り宮しました。

両日ともに天候に恵まれた今年、夏の始まりを告げる祭りを一目見ようと、国内外から大変多くの人が押し寄せ、熱く激しい祭りの雰囲気と一緒に味わっていました。

あじさい花灯り回廊

6月29日、あじさい寺の名で親しまれている寺分地内の平等寺で、「あじさい花灯り回廊」が今年も開催されました。

130種4千株のあじさいが植えられている境内では、雨にしっかりと濡れたあじさいがLEDろうそくの灯りに照らされ幻想的な空間を作り出していました。来場者は小雨が降る中、色とりどりに咲いたアジサイに目をやり、梅雨のひとつときを楽しみました、地域住民や檀家をはじめ、多くのボランティアの力により作り上げられるこのイベントには、金沢星稜大学の学生4人も「灯り人」に加わり、参拝客をもてなしました。



「灯り人」が浴衣姿でお出迎え



平等寺正面が幻想的にライトアップされた

美しく咲いた色とりどりのあじさいが水面に浮かぶ



恋路火祭り



急坂を慎重に下る



大松明がキリコと海面を紅く照らす

7月14日、「悲恋伝説の地」恋路地区で、恋路火祭りが行われました。午後9時過ぎ、担ぎ手により坂の上広場から細く急な坂を下ったキリコは、浜から海へと入ります。威勢の良い掛け声に合わせてキリコが海中を練りまわる中、打ち上げ花火が夜空とキリコを彩り、波打ち際では油物と呼ばれる仕掛け火に火が灯され、「令和」の2文字が浮かびあがりました。



今年は「令和」の文字が浮かびあがった

のとギリシマツツジを英国へ贈呈の決意新たに



ライオネル氏(右)とシャーロットさん(右から3人目)の案内でエクスペリーガーデンを視察



ウィズリーガーデンで専門家の説明に耳を傾ける一行

園芸の本場・イギリスへの「のとギリシマツツジ」苗木贈呈に向けて、6月29日〜7月4日にかけて持木町長やNPO関係者5人による視察団が渡英。植栽場所の選定や候補地視察などを行いました。

今回の訪問地

6月30日…… ヒースロー空港着、ウォキング、ウインザー
7月1〜2日…… サウサンプトン
(エクスペリーガーデン)



のとギリシマツツジ贈呈地視察報告

NPO法人ののとギリシマツツジの郷理事長 大路篤夫



植物の専門家・マークさん(右)から説明を受ける大路理事長(右から2人目)

園芸の本場、英国への「のとギリシマツツジ贈呈苗」送付を今秋に控え、贈呈先の庭園を視察してきました。

一行は持木一茂町長を団長とし、町議会より宮田勝三議員、当法人の政田成利事務局長と私など5人で6月30日に英国王立園芸協会(RHS)が所有・運営する「ウィズリーガーデン」と伝統と品格の街ウインザーにある「サヴィルガーデン」を視察。7月1〜2日はロスチャイルド家の「エクスペリーガーデン」を訪問し、シャーロット、ライオネル姉弟による植栽候補箇所をはじめとした園内の案内と歓迎を受けました。

ライオネル氏は「今年はエクスペリーガーデンにクルメツツジが植栽されて100年の節目の年に当たります。今度はのとギリシマツツジで再び英国内外

へ情報発信したいと思います。」と心強い思いを述べられ、晚餐会まで催していただきました。シャーロットさんは昨秋、能登町を訪れていて、持木町長との懇談やのとギリシマツツジの古木視察を行っています。今回も付きっきりでお世話や自宅での昼食会のおもてなしをいただきました。

視察した箇所はいずれも英国トップクラスの庭園で、品種の多さや造成地と自然林とのバランスも良く、世界中から見学が絶えないとのこと。特に、ロスチャイルド家から提示されたエクスペリーガーデン内の候補地は、土質や陽光の環境などが生育に適しており、なんと今秋、無事に苗木を送り届け、来年の贈呈式を成功させなければならないと強く感じました。

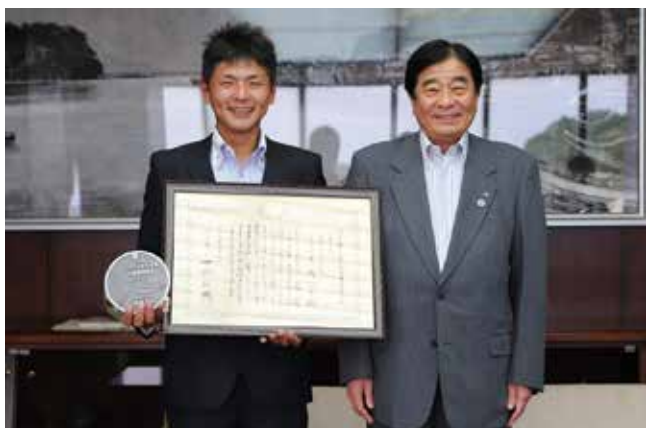
英国での初日の夜は、ロンドンに派遣されている当町(旧能都町)出身の県職員の方、同じく当町(旧柳田村)出身でロンドンの出版社に勤務する方も参加して、「能登町会」とも言うべき夕食会が行われました。お二人から「今後、何かのお役に立てれば嬉しいです」とありがたい言葉をいただきました。

今回、町当局のご理解をいただき視察が実現しました。各庭園での植樹を成功させ、ロスチャイルド家とのつながりも大切にしながらのとギリシマツツジによる地域振興に今後も取り組んでいきたいと思っています。

日はばたく中小企業・小規模事業者 300 社受賞の出大敷が受賞報告

6月18日、役場能都庁舎で「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選ばれた(有)日の出大敷の中田洋助取締役が受賞報告を行いました。

同社は海域の異なる2ヶ統操業を実現、改革型の漁船・漁網を導入して、効率的な操業に取り組んだことが今回評価されました。中田さんは「能登の水産業を更に盛り上げていくために、これからも頑張りたい」と今後の思いを語りました。



受賞した中田洋助取締役（左）

農奥能登農業推進協議会 業の担い手育成を考える

県農林水産部長と奥能登4市町の首長・JA組合長らが、地域農業の担い手の育成・確保や魅力ある特産品の生産・出荷に関して協議する「奥能登農業推進協議会」は6月6日、能登町を会場に開催されました。

宮犬にあるワールドファームの栽培ほ場と、笹川の「ひらみゆき農園」加工施設を視察。同農園代表の平美由記さんは「後継者を残していくには、通年雇用と他産業並みの収入が必要」と語りました。



商品を並べ取り組みを説明する平美由記さん（右）

小さなカワヤツメの稚魚をやさしく放流しました



絶滅危惧種のカワヤツメ繁殖へ

6月25日、柳田地内の町野川で、柳田中学校1年生13人が、絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているカワヤツメの稚魚約150匹を放流しました。

石川県立大学の研究チームが人工授精した卵を、輪島市の町野川漁業協同組合が飼育したもので、体長は約1センチほど。稚魚は海で3～4年過ごした後、50センチくらいに成長すると生まれた川に産卵のため帰ってきます。

受賞の喜びを報告する宮下末子さん（右）



町第30回日本伝統俳句協会賞受賞 内2人目の栄誉 喜び語る

6月14日、「第30回日本伝統俳句協会賞」を受賞した真脇出身の宮下末子さんが高倉公民館の池上館長とともに役場能都庁舎を訪れ、受賞を報告しました。

宮下さんは揚げ浜塩田を題材とした俳句30句を一組として応募し、全国から寄せられた作品の最高賞に選ばれました。宮下さんは昭和63年に俳句を始めるきっかけとなった高倉公民館の俳句教室「すりん句会」に参加。現在も所属し、活動しています。

再社会を明るくする運動 出発を見守る地域に向かって



メッセージを読み上げる保護司の橘重克さん

「犯罪や非行のない、安全・安心な地域づくりに取り組んでいきたい」と決意を述べました。

町では3月19日に、柳田公民館内に「輪島 鳳珠 珠洲 更生保護サポートセンター」を開所しており、地域における保護司活動の拠点となっています。式では、センター開所への謝意が伝えられました。



柳田公民館2階に奥能登地区の保護司活動の拠点となる「輪島 鳳珠 珠洲 更生保護サポートセンター」を開所(2019年3月19日)

み柳田、内浦地区ひとり暮らし高齢者のつどい ンで話して笑って健康に

7月2日に柳田地区、3日に内浦地区ひとり暮らし高齢者のつどいがやなぎだ荘で開催され、それぞれ79人、111人が参加しました。

2日の開会では、柳田地区の民生委員児童委員の紹介があり、参加者は町老人保健ビジター会によるレクリエーションや上町こども園の園児による歌と踊りなどを楽しみ、笑いや会話の絶えないひとときを過ごしました。



参加者みんなで体を動かしながらのレクリエーション

お子さんからひ孫さんまで家族そろってお祝いしました



大新谷きよ子さん 正8年7月生まれ 長寿100歳

7月1日、宇出津山分の新谷きよ子さんが100歳を迎えました。下野副町長が柳田温泉病院を訪問し、長寿祝い状と花束を手渡しました。

好きな食べ物は刺身、果物、ジュース、アイスクリームという新谷さんには、お子さんが3人、お孫さんが10人、ひ孫さんが16人いて、たくさんの家族がお祝いに来ました。「みんなに祝っていただけてとてもうれしいです。」と喜びと感謝を表しました。